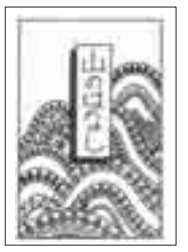
あしやの民話⑯「七右衛門ぐらのたたり」



●文・三好美佐子さん
●絵・竹本 温子さん

むかしのことやが、六甲山の荒地山に、権現さんという山の神さんがおられた。

権現さんは、いつも山を守っておられて、山を汚すような悪さをすると、生きてここから帰されなんだそうな。

そのことを知ってか知らずか、こんなことが、起きてしもた。

六甲山のふもとに七右衛門という若い男が住んでおった。

その若い男は小さい折、ふた親を亡くして、独りぼっちで暮らしとった。

まじめに、こつこつとよく働き、村の人たちから、

「七右衛門、七右衛門。」

と、いわれていたそうな。

暮らしは貧しかったが、平和で、幸せに過ごしとった。

ところが、仲の良かった友だちと、ちょっとしたことで口げんかになってしもた。

その上、その友だちからひどい裏切りに会い、今までの七右衛門とは、別人のようになってしもた。

七右衛門は、誰も信じられへんし、誰も頼ることができんようになり、苦しい日を過ごすようになった。

ある日のこと、飲んだこともない、お酒を飲んだ。

そのお酒が、また七右衛門を変えてしもた。

お酒は、自分を忘れさせてくれることから、毎晩酒屋の暖簾をくぐるようになった。

遅うまで、酒びたりになり、暗い毎日を過ごすようになっていた。

仕事は怠け、昼間から、賭け事はするし、酒を一日中飲むようになった。

そして、ちょっとでも諭してくれる人には、からんでけんかをする。

村人も、そんな七右衛門に愛想をつかし、声をかけるのもいやがった。

わずかな貯えも、飲み代や賭け事で使い果たし、その日の食べるものもないくらいになった。

村人は、ここまでになった七右衛門をこのまま放ってもおけず、人を替えては、まじめに働くよう諭したが、

「帰れ、帰れ。

わしのことは、構わんでくれ。

わしは今まで独りで生きてきた。

これからも、独りで生きていく！」

と、大声でわめく始末であった。

だんだんと村人は、そんな男に構わんようになっていった。

七右衛門はほんとうに独りになってしもた。たまに家に入ってくるスズメでさえ、食べるものもない家にあきれて、飛んで逃げていく。

あらゆることに追いつめられた七右衛門は、ある日、決心して、六甲山に登った。

そして、岩かげにかくれて、あちら、こちらと探していると、荒地山の岩場に、頭を砕かれた七右衛門を見つけた。あたりには、脅し取った品物やお金が散らばっておった。

村人たちは、そのようすに何ともいえない気持ちになった。

もっと早く、七右衛門を立ち直らせるべきであったと、悲しんだ。

山の神さんのお怒りを受けた七右衛門であったが、村人は、亡きがらを連れて帰り、丁寧に弔った。

お年寄りの話によると、今でも、荒地山で山を汚すような悪いことをすると、生きては帰れなくなったり、荒地山から出られなくなるという、そんな言い伝えが残っているそうな。

七右衛門が死んでいた岩場は「七右衛門ぐら」と呼ばれていたが、今では、そのあたりを岩登りで有名な「ロック・ガーデン」と呼んでいる。

ここは、日本でのロック・クライミング発祥の地、今も、険しい岩場として知られている。

その近くには、権現さまが祭られており、むかしも今も、山を守っておられる。

有馬に通う行商人を襲った。

背負うている荷を奪い取ったり、ふところの財布のお金を取ったりした。

それも、一人や二人ではない。何人もの人に悪いことをした。

それは、一日だけの悪事であったが、その日のうちに村人たちに知れ渡った。

そして、七右衛門の姿はその日からぷっつりと消えた。

しばらくたって、村人たちが七右衛門を探しに山に入った。

●「あしやの民話」は、芦屋に語り伝えられていたお話を、三好美佐子先生をはじめ、民話を研究するグループの皆さんが収集整理して、やさしく民話の形に整えられ、平成十一年に発行されたものです。

浪華風俗を描く「菅楯彦の世界」

「住吉御田植女」（大阪府立中之島図書館）

【浪華風俗を描く「菅楯彦の世界」展】

■**期間** 10月６日～11月18日＜月曜日休館＞ ■**開館時間** 午前10時～午後５時（入館は４時30分まで） ■**会場** 美術博物館 ■**観覧料** 一般500（400）円、大高生300（240）円、中学生以下無料 ＊（ ）内は20人以上の団体料金

【本館学芸員による列品解説】

■**日時** 10月20日（土）・11月３日（土）午前11時～11時30分
■**会場** 美術博物館
■**参加費** 要観覧料（上記のとおり）
■**申し込み** 直接会場へ

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432/FAX38-5434

谷崎潤一郎記念館の催し

【雑学講座】日曜 男の雑学塾「芦屋の史跡散歩」

■**期間** 10月28日（日）午前10時～午後１時 ■**集合** 阪急芦屋川駅 ■**内容** 元美術博物館学芸員・和田秀寿氏と芦屋川沿いに史跡巡り。谷崎館で田舎の昼ごはん ■**受講料** 4,000円（昼食代含む）

【文学・歴史散歩】紅葉の室生寺・長谷寺を訪ねる

■**日時** 11月21日（水）午前９時30分～午後５時30分（予定）
■**集合** ＪＲ芦屋駅（バスツアー） ■**内容** 元美術博物館学芸員・小田博氏と紅葉の山深い室生寺・長谷寺を訪ねます。昼食は門前町「白酒屋」で ■**定員** 22人 ■**参加費** 13,500円 ■**申し込み** 記念館へ

【谷崎文学朗読会】「源氏物語」朗読シリーズ 第９回

■**期間** 10月27日（土）午後１時30分～３時 ■**会場** 講義室
■**内容** 「谷崎源氏『賢木』その２」朗読 ■**朗読** 朗読グループＲＳＴ・北山たか子、安生直美 ■**定員** 30人＜要予約・当日キャンセル不可＞ ■**参加費** 1,000円（入館料・ドリンク代含む） ■**申し込み** 記念館へ

【秋の特別講座】 元市長・北村春江「やさしい法律」第１回

■**日時** 11月13日（火）午前10時～11時30分 ■**会場** 講義室
■**内容** 「知っておくと得、今の法律」＜全３回＞（おやつ付）
■**講師** 弁護士・北村春江氏 ■**定員** 25人 ■**受講料** 3,000円（入館料・おやつ代含む） ■**申し込み** 記念館へ

【文学館講座】 白磁上絵付け講座

■**期間** 11月17日・12月１日・15日・１月19日・２月２日（土）午前10時～正午 ■**会場** 講義室 ■**内容** 肥前有田焼の白磁の皿に絵付けし焼成 ■**講師** 肥前陶芸館主宰・福田一義氏 ■**定員** 20人 ■**参加費** 10,000円（全５回分・申し込み時に前払い）※材料費別 ■**申し込み** 記念館へ

【ロビーギャラリー】中川ゆり子 手織り展

■**期間** 10月24日～11月11日＜月曜休館＞午前10時～午後５時（入館は４時30分まで・最終日は３時まで） ■**内容** 手織り作家・中川ゆり子の手織り作品展 ■**入館料** 300円

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館
☎23-5852/FAX38-3244（伊勢町12-15）
Ｅメール ashiya-tanizakikan@rhythm.ocn.ne.jp

〈平成19年度版〉芦屋市ガイドマップ

このほど、平成19年度版「芦屋市ガイドマップ」を発行しました。

市役所北館１階行政情報コーナーまたは北館２階広報課で、ご希望の市民の皆さんお１人につき１部を無償で差し上げます。

＊印刷部数に限りがありますので、複数部数が必要なかたは、ご面倒ですが広報課へご相談ください。

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

シリーズあしや子ども風土記

■美術博物館・市役所売店で販売しています。

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432

●「広報あしや」バックナンバーは、市ホームページ『広報あしや ON LINE』でご覧いただけます。